

# 1 市場動向の概要と対策

## (1) 野菜

全体の動向と見通し

### 8月と9月の実績

(東京都中央卸売市場)

区分 品目	8月の取扱実績(計)				9月の旬別取扱実績							
	8月		8月		9月上旬				9月中旬			
	入荷量 (t)	前年比 (%)	単価 (円/kg)	前年比 (%)	入荷量 (t)	前年比 (%)	単価 (円/kg)	前年比 (%)	入荷量 (t)	前年比 (%)	単価 (円/kg)	前年比 (%)
総数	142,487	97	218	109	48,799	105	210	109	49,877	96	214	99
だいこん	12,963	109	90	100	4,851	110	102	118	4,915	102	126	136
にんじん	7,370	103	122	88	2,742	107	80	80	2,763	90	92	93
はくさい	8,405	106	80	105	2,793	114	86	87	3,342	96	82	83
キャベツ類	15,002	93	70	121	5,149	103	59	103	4,775	84	81	122
ほうれん草	1,093	112	652	91	431	113	701	95	419	101	752	102
ねぎ	4,342	95	378	190	1,690	115	356	139	1,509	95	400	144
レタス類	8,589	100	163	73	2,618	102	213	116	2,443	87	253	133
きゅうり	9,849	95	229	103	2,850	114	331	117	2,989	108	230	61
なす	6,075	85	195	142	1,637	97	258	141	1,320	76	329	126
トマト	10,935	96	288	99	3,260	89	291	116	4,099	108	236	96
ピーマン	2,332	82	341	160	862	98	216	132	952	101	220	99
にら	959	106	264	77	260	116	476	92	262	88	463	97
ばれいし	7,143	111	123	110	3,090	119	85	78	3,435	111	83	75
生しいたけ	526	100	937	98	209	102	1,020	100	240	83	903	106
えだまめ	1,862	87	706	108	415	86	539	105	320	99	592	82
食用ぎく	28	127	1,661	110	18	146	1,018	69	25	142	686	58

### 概況

9月の野菜は、前月に引き続き東北、高原、北海道産が中心に出回り、総入荷量は前年並となった。9月11日に台風15号の関東上陸等もあって、この前後に、農作業の遅れや交通事情の乱れ等から、わずかではあるが少なめの入荷となったほかは、落ちついた入荷となった。

根菜類は入荷順調ながら、価格は前年比1～2割高。葉茎菜類は、キャベツが入荷が順調で前年並。主力の果菜類は、低温と日照不足の影響もあって入荷が前年を下回り、価格は堅調であったが、トマトは下旬に関東産が豊富に入荷したりして、乱高下した。土物類は少なめの入荷ながら前年並の価格に終わった。

このような中で、ねぎが高値ムードを続け、にらも長い間低迷状態であったが、9月に入り一転堅調な推移となった。

個人消費は依然として力強さに欠けるが、消費者は「安さ」に固執する一方で、こだわりを求めているのも事実。新鮮、安全、おいしさなど、納得させる理由づけに取り組んで、別格性のある価格づくりを目指すのも、一つの方法である。

## (10月の見通し)

(東京都中央卸売市場)

品目	区分	入荷量 (t)			キロ当たり単価 (円)			山形県産前年10月実績	
		前年実績	前年比 (%)	5カ年平均	前年実績	前年比 (%)	5カ年平均	前年入荷量	前年占有率 (%)
だいこん		15,906	95	15,316	77	108	93	109	0.7
にんじん		8,696	98	9,105	110	98	133		
はくさい		14,765	98	14,425	71	90	89		
キャベツ類		16,280	100	16,174	58	104	87		
ほうれん草		2,060	100	2,074	432	95	538	2	0.1
ねぎ		6,547	93	6,108	162	156	272	273	4.2
レタス類		8,179	95	7,430	157	115	230		
きゅうり		7,262	98	7,399	250	104	317	100	1.4
なす		4,663	95	4,335	254	103	353		
トマト		6,666	100	6,904	362	93	367	38	0.6
ピーマン		1,911	100	2,085	303	102	372		
にら		951	100	954	322	120	461	16	1.7
生しいたけ		1,489	90	1,226	572	120	855	9	0.6
ばれいしょ		8,374	105	9,680	113	81	105	6	0.1

## 概況

10月は、いよいよ秋もたけなわ、市場でも夏の果菜類から秋冬野菜へと舞台が回り、キャベツ、だいこん、はくさい、にんじん、たまねぎ等が主力品目となる。この5大品目が、全野菜の45%を占める。その供給地として、北海道、茨城、千葉産がベストスリーとなり、3大産地で全入荷量の約50%を占めてくる。

昨年10月は、全国的に気温高傾向の中で、主要品目の作柄が順調となり、軒なみ市況低迷を演じ、野菜の平均価格は前年を15%下回る191円/kgであった。本年は、状況が異なり8月下旬以降の曇雨天や9月11日の台風15号の関東上陸等で、露地野菜を中心に収量減と品質低下が懸念されている。

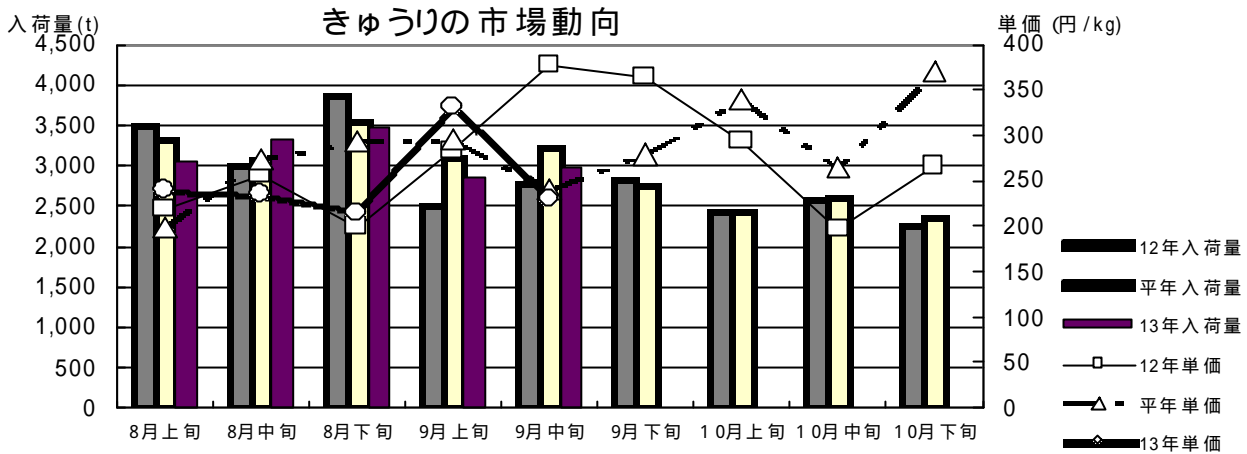
上の見通し表を一見しても、前年を大幅に上回る入荷量となる品目はなく、消費の冷え込みを勘案しても、販売価格はいくぶん堅調予想。前年比約10%上回る平均販売価格 200円/kg台に乗ることを期待したい。

ただ、ものだけを売るのではなく、情報を添えて売る時代なので、生産にかかわる情報や産地の知っている情報を工夫しながら伝達して、価値を認めてもらう努力を重ねていくことが大切である。

# きゅうり

## (1) 9月の販売状況

上旬	入荷量： 2,850 t (前年比 114 )	価格： 331円/ kg (前年比 117 )
中旬	入荷量： 2,989 t (前年比 108 )	価格： 230円/ kg (前年比 61 )



9月前半を中心に、福島、岩手など東北産が主力に出回り、後半、埼玉、群馬、茨城などの抑制ものが加わって、供給産地が多様化し拡大した。

総入荷量は前年をやや上回ったが、月半ばには東北産が減少傾向に変わった。一方で、関東産が曇雨天、台風の影響により一時的な入荷減が見られ、品薄高となる場面も見られた。

各産地が競合する中で、産地間価格差が拡大しており、概して東北産が人気あり、2~3割上回る推移をしめた。

東京都中央卸売市場扱い。

平年は平成8年から12年までの平均値。平年単価は5カ年単価の単純平均。

## (2) 10月の見通し

### 関東産抑制ものが出揃い最盛期へ！

<b>入荷量</b> 7,115 t 前年比 98% 平年比 96%	<b>価格</b> 260円/ kg 前年比 104% 平年比 82%	<b>旬別相場予想推移</b> 上旬 → 中旬 ↗ 下旬 ↘
---	--	---

東北産地が漸減する一方で、関東抑制ものが最盛期となり、月末には西南暖地産も顔を見せてくる。主力関東産の作柄は、概ね平年並と見られるものの、9月の曇雨天続きから、全体に草勢が弱いと見られる。

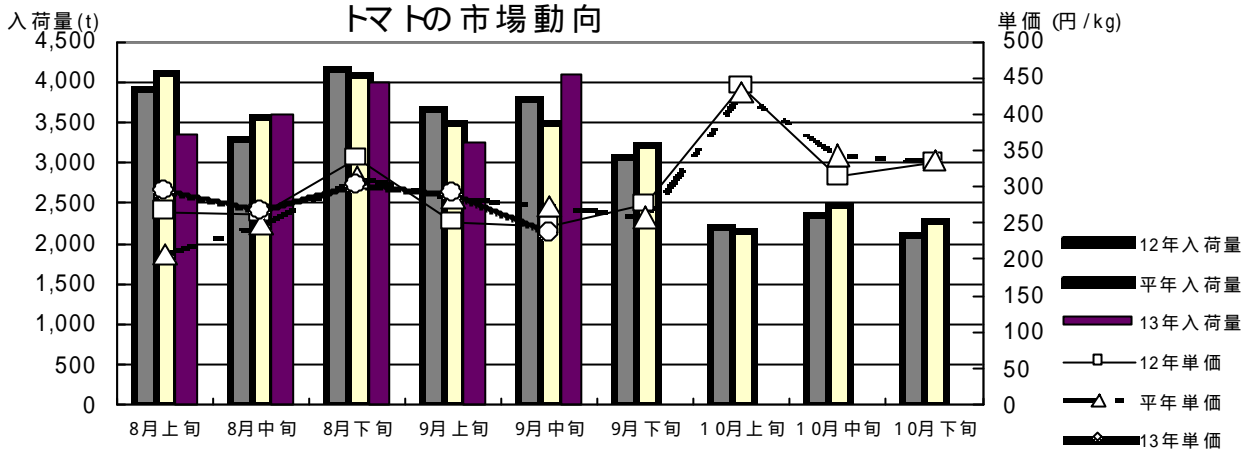
入荷量は、前年並か。9月のような大きな波乱はないと見込まれる。前年が過去3ヶ年の最安値(250円/kg)であったことから、これをやや上回る予想。

主な生産県の入荷見込み(10月)				作柄概況
県名	前年 入荷量(t)	前年シェア (%)	前年比入荷 見込(%)	
埼玉県	2,223	30.6%	92%	曇雨天が続いていることから、果実の拡大が進まないまま枯れてしまうものが2割弱見られる。また、全体に死果数が多く草勢も弱い。天候が回復すれば、少なかった前年並に回復する見込み。
群馬県	1,618	22.3%	100%	生育は概ね平年並に推移しているが、天候不順からやや徒長気味で、一部台風によるハウスの冠水で、生育遅延等が散見される。病害虫の発生も懸念される。入荷量は概ね前年並が予想される。
茨城県	1,004	13.8%	90%	低温・日照不足により、着果不良。品質は尻細り、曲がりが多い傾向。

# トマト

## (1) 9月の販売状況

上旬	入荷量： 3,260 t (前年比 89 )	価格： 291円/ kg (前年比 116 )
中旬	入荷量： 4,099 t (前年比 108 )	価格： 236円/ kg (前年比 96 )



北海道、東北産の出荷後半もの、関東産の抑制ものはしりが出回り、きゅうり同様多数の産地が重なった。

とくに、後半は東北産の盛期が続いたことに加え、関東産の盛期、台風15号の温風の影響もあって、着色が増進し、入荷増と値下がり乱高下した。

9月下旬頃の販売価格は、4kg1ケース当たり東北産で1,500～1,300円、関東産が同1,000～800円程度。東北産は着色、肉質、店持ちが良かった。関東産は着色がやや薄く、果実が軟らかめ、ヘタ部分も黄ばむ傾向があって、価格差が発生した。

東京都中央卸売市場扱い。

平年は平成8年から12年までの平均値。平年単価は5カ年単価の単純平均。

## (2) 10月の見通し

**色よし、味よし、日もちよし！**

入荷量
6,670 t
前年比 100%
平年比 97%

価格
335円/ kg
前年比 93%
平年比 91%

旬別相場予想推移
上旬 ↗
中旬 →
下旬 ↘

10月は東北産が終盤となる一方で、千葉、茨城を主力とする関東産が盛期。今後、夜温が低下してくれば、入荷量、品質とも安定してくる。

全体的には、前年が平年よりやや少なめの入荷となった年であったが、下記主産県の状況から見ると、前年並の入荷量となる見込み。

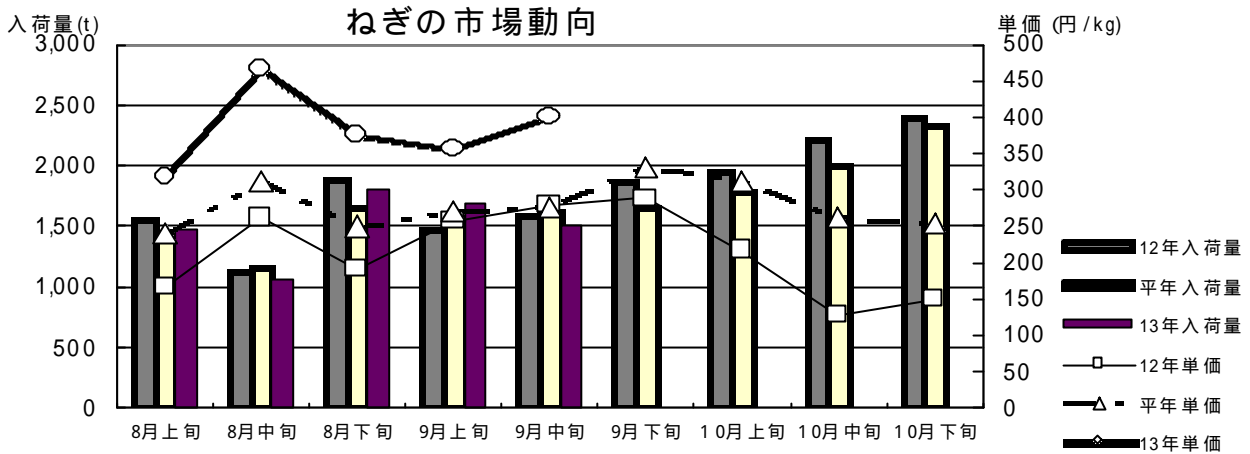
東北産地は、管理を良くして、できるだけ10月まで引っ張る出荷を心がけたい。

主な生産県の入荷見込み(10月)				作柄概況
県名	前年 入荷量(t)	前年シェア (%)	前年比入荷 見込(%)	
千葉県	1,965	29.5%	100%	生育初期に高温乾燥が続いたため、一部で生理生涯が発生し、芯止まりや着果不良の発生が見られる。玉の肥大は順調であるが、収穫量への影響が心配される。病害虫は特になく品質は平年並の見込み。作柄は平年を下回り、出荷量は少なかった前年並の見込み。
茨城県	1,298	19.5%	95%	天候不順により肥大悪く、小玉傾向。3段花房の着果やや悪い。
熊本県	607	9.1%	90%	秋冬トマトは、干ばつ傾向により、低段果、1～2月果の着果にばらつきがある。やや遅れ気味で、本格出荷は10月下旬からが見込まれる。

# ねぎ

## (1) 9月の販売状況

上旬	入荷量： 1,690 t (前年比 115 )	価格： 356円/ kg (前年比 139 )
中旬	入荷量： 1,509 t (前年比 95 )	価格： 400円/ kg (前年比 143 )



北海道、東北、北陸、関東と、関東以北の産地が勢揃いした。本年の特徴は、4月23日にセーフガードの暫定措置が発動された中国産が大幅に減少し、それにともない堅調な価格で推移していることである。

国内産地は、天候不順から生育遅れや肥大不足等が見られ、とくに台風15号の後遺症による病害や品傷み等で市場には順調に入荷しているものの高価格が続いている。セーフガードの暫定措置発動等により、国内の需給バランスが乱れているという見方があるようだ。

東京都中央卸売市場扱い。

平年は平成8年から12年までの平均値。単価は5カ年単価の単純平均。

## (2) 10月の見通し

**前月比は高値反動安だが、前年比大幅高！**

入荷量
6,090 t
前年比 93%
平年比 100%

価格
250円/ kg
前年比 154%
平年比 92%

旬別相場予想推移
上旬 →
中旬 →
下旬 →

10月から3月までは、秋冬ねぎの区分となる。生産地の作付面積は約1万haとなっており、前年を5%下回っている。この減少は、前年産の市場価格低迷が主な要因である。現在の生育状況は、回復基調で全体的にまずまずというところ。

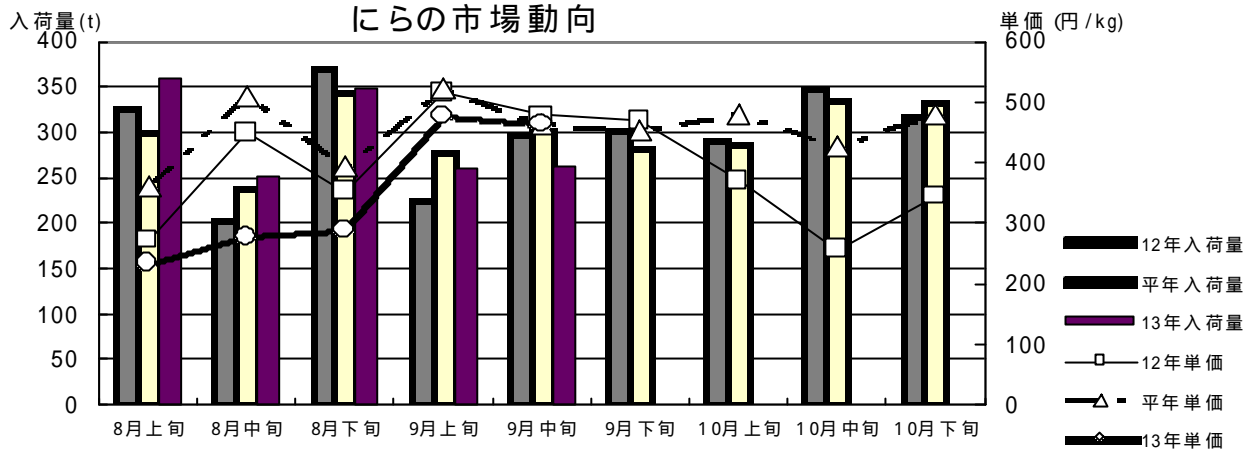
作付面積減とセーフガードを勘案すると、総入荷量は前年比5%下回る見通し。したがって、10月は前月の高値反動もあり、価格訂正はあるが、依然として前年より大幅高となると予想される。

主な生産県の入荷見込み(10月)				作柄概況
県名	前年 入荷量(t)	前年シェア (%)	前年比入荷 見込(%)	
青森県	1,647	25.1%	95%	10月一杯まで最盛期が続く。葉鞘肥大にばらつきあり、やや細め。
千葉県	434	6.6%	95%	生育の遅れが前年より7~10日程度あり、一部で台風による葉折れや曲がりなどの被害を受けた。病害虫は白絹病、スリップス等の発生がやや多い状況である。品質は、台風と病害虫の影響で曲がりや葉食の悪化が懸念される。
新潟県	506	7.7%	110%	7月から8月上旬まで続いた高温乾燥で1~2週間の生育遅れがあったが、10月2週から出荷が増える。夜温も下がりが、降雨もあって作柄回復傾向。少なかった前年を上回る。

# に ら

## (1) 9月の販売状況

上旬	入荷量：	260 t (前年比 116 )	価格：	476円/ kg (前年比 92 )
中旬	入荷量：	262 t (前年比 88 )	価格：	463円/ kg (前年比 97 )



夏場は、1束当たり20～30円と長期低迷状態であったが、9月に入るとまもなく50円中心の価格に上伸した。やれやれというところ。中旬には台風15号による雨と温風現象によるいたみ等が発生し、商品化率減とともに、入荷減をきたした。

一応強含みで経過したもの、この価格は平年並に戻ったと見るべきだろう。異常天候に負けない「にら」の生産出荷が今年の教訓であろう。

東京都中央卸売市場扱い。

平年は平成8年から12年までの平均値。平年単価は5カ年単価の単純平均。

## (2) 10月の見通し **9月の堅調ムードを10月も期待 !**

<b>入荷量</b>	<b>価格</b>
950 t	385円/ kg
前年比 100%	前年比 120%
平年比 100%	平年比 83%

10月の生産県は、栃木以下3県で、この3県で82%を占め、これらが価格をリードする。一部病害虫の発生も見られるものの、総入荷量は前年並。品質も安定してくる時期なので、9月の堅調ムードを引き継いで、1束100g当たり40円の攻防ではなかろうか。

にらは鮮度だ。鮮度は、おいしさとか、栄養豊富とか、日持ちの良さ、安全性などのイメージを持っている。この品質と鮮度を大切にしたいもの。

主な生産県の入荷見込み(10月)				作柄概況
県名	前年 入荷量 (t)	前年シェア (%)	前年比入荷 見込 (%)	
栃木県	366	38.4%	103%	8月以降降雨があったことから、生育は順調である。病害虫は、アザミウマ、ネギコガ、葉腐れ病、白絹病の発生が一部で見られる。
茨城県	275	28.9%	100%	降雨もあり、今後気温が低めに推移していくと思われるので、作柄は概ね平年並が予想される。
千葉県	141	14.8%	99%	生育は順調であったが、台風の被害により1割程度の減収が心配される。病害虫はスリップスの発生が多めである。作柄は平年をかなり下回る見込み。出荷量は価格動向によるが少なかった前年並の見込み。